

稲作情報



新潟地方気象台の発表では、気温は平年より高く、降水量は平年より少ないと予想されています。根の活力を保ち、登熟に必要な水分を十分確保するために飽水管理を行い、高品質米を生産しましょう。

●高温時は速やかに

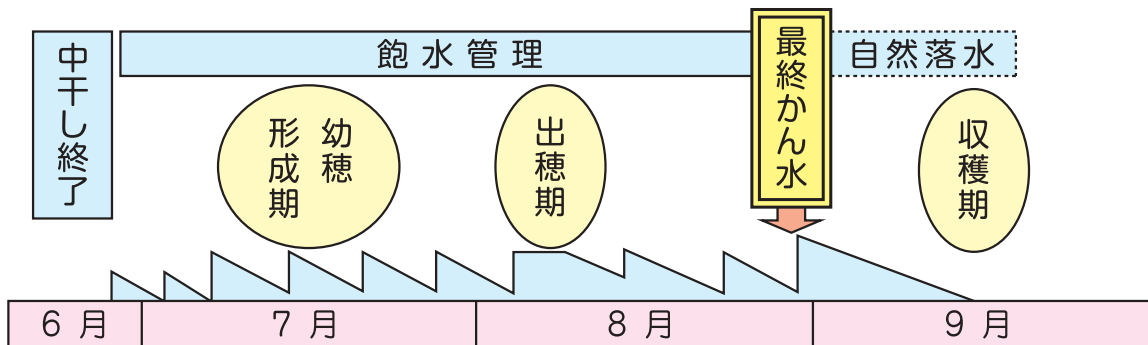
湛水

穂ばらみ期から出穂・開花期までは、特に水分を必要とする時期です。また、出穂後10日間が高温で推移した場合、水管理を適切に行わないと、デンブンの粉への転流阻害による乳心白粒や背白粒が発生しやすくなります。これを抑えるため飽水管理を基本に、異常高温時（フェーン時）は速やかに湛水し、稲体へ水分を供給しましょう。

一口メモ

- ・高温年では灌水間隔を短く、低温年には灌水間隔を長めに！
- ・異常高温、強風フェーン時には速やかに湛水して急激な蒸発による障害の発生防止！

～中干し終了後の水管理イメージ～



●早期落水は厳禁

早期に落水すると、下葉の枯れ上がりや倒伏の発生が助長され、登熟不良により未熟粒等が増加して外観品質を低下させることも、玄米中のタンパク質含量が高まり食味も低下してしまいます。

粉の中に70%程度のデンブンが蓄積される出穂後25日頃を落水期の目安としますが、以降も高温が続くようであれば、可能な限り飽水管理を行いましょ。

●カメムシ防除の徹底

米の検査規格では、斑点米が千粒の中に2粒あれば2等になります。防除を徹底して斑点米の発生を抑えましょう。

水田内は全面散布とし、畦畔も合わせて散布します。散布量が不足しないように注意してください。

散布適期は穂揃いから出穂期10日後です。

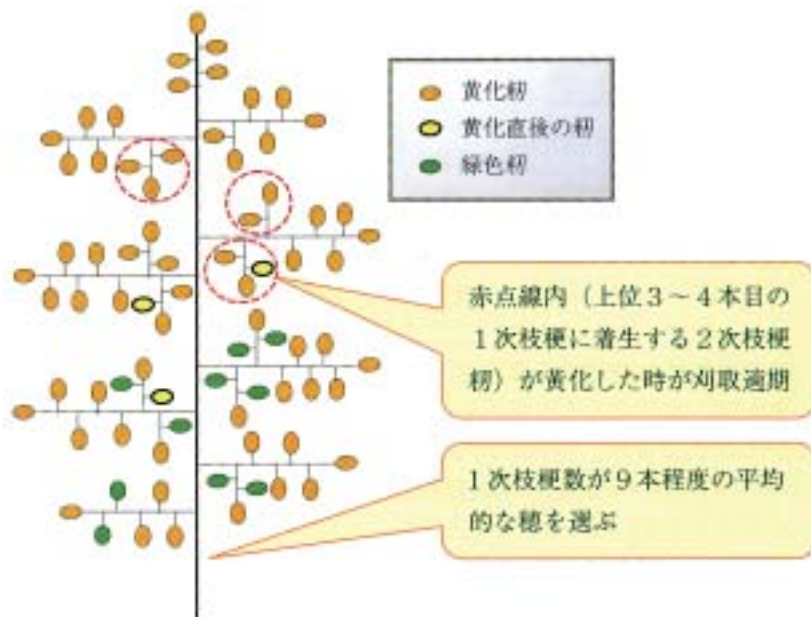
稲作情報



〔カメムシ防除薬剤〕

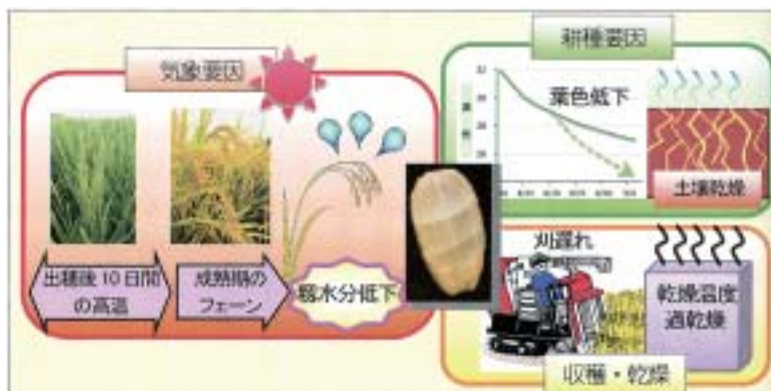


薬剤名	散布面積10a当り散布量	散布時期
スタークル	粉剤 3kg	穂そろい期～ 出穂期10日後
	液剤 1,000倍 150ℓ	
	粒剤 3kg	出穂期3～7日後



収穫適期の黄化籾率85～90%の状況

(富山県水稻栽培指針から引用)



胴割粒の発生要因

●適期収穫に努めましょう

刈遅れは胴割粒・着色粒等が増加して品質低下を招きます。
収穫適期は出穂後の日平均気温の積算値からおおむ

ね推定でき、コシヒカリで10000℃(高温年は9500℃)が目安になります。

外観では黄化した籾割合が85～90%くらいになった頃に収穫するのが最適です。

●胴割粒が増加する要因

胴割粒は次のような複数の要因が絡んで発生します。早期落水による土壌乾燥や刈遅れに注意しましょう。